

令和3年度 豊橋技術科学大学第3年次入学者選抜学力検査問題解答例

専門科目（2：電気・電子情報工学）

[ 1 ]

(1)

ア.  $B = \frac{\mu_0 I}{2\pi x}$

イ. 無限長直線導体Lを流れる電流によって生じる磁束密度 $B$ は、棒状導体と常に直交する。図1のように、棒状導体が速さ $v$ で時間 $t$ だけ移動したとき、その移動距離は $vt$ となるので、棒状導体が鎖交する磁束 $\Phi$ は、

$$\Phi = vt \int_{x-a/2}^{x+a/2} B dx = \frac{\mu_0 I vt}{2\pi} \int_{x-a/2}^{x+a/2} \frac{1}{x} dx = \frac{\mu_0 I vt}{2\pi} [\log x]_{x-a/2}^{x+a/2} = \frac{\mu_0 I vt}{2\pi} \log \frac{x+a/2}{x-a/2}$$

となる。これより、棒状導体の両端間に生じる誘導起電力の大きさ $E$ は

$$E = \left| -\frac{d\Phi}{dt} \right| = \frac{\mu_0 I v}{2\pi} \log \frac{x+a/2}{x-a/2}$$

(2)

ア. 金属導体球内 ( $r < a$ ) の電荷は0 (導体球に与えられた電荷 $Q$ は導体球表面に分布) である。よって、 $r < a$ における電界の大きさは

$$E = 0$$

誘電体球殻内部 ( $a \leq r < b$ ) の電荷は $Q$ 、電界 $E$ は導体球および誘電体球殻の中心から放射状方向に発生する。半径 $r$ の同心球殻表面に対してガウスの法則を適用すると、

$$4\pi r^2 \cdot E = \frac{Q}{\epsilon}$$

よって、 $a \leq r < b$ における電界の大きさは

$$E = \frac{Q}{4\pi \epsilon r^2}$$

誘電体球殻外 ( $r \geq b$ ) においても同様に、半径 $r$ の同心球殻表面に対してガウスの法則を適用すると、

$$4\pi r^2 \cdot E = \frac{Q}{\epsilon_0}$$

よって、 $r \geq b$ における電界の大きさは

$$E = \frac{Q}{4\pi \epsilon_0 r^2}$$

イ. 金属導体球表面 ( $r = a$ ) の電位は

$$V = -\int_{\infty}^b \frac{Q}{4\pi \epsilon_0 r^2} dr - \int_b^a \frac{Q}{4\pi \epsilon r^2} dr = \frac{Q}{4\pi \epsilon_0 b} + \frac{Q}{4\pi \epsilon} \left( \frac{1}{a} - \frac{1}{b} \right) = \frac{Q}{4\pi \epsilon_0} \left( \frac{1}{b} + \frac{\epsilon_0}{\epsilon} \left( \frac{1}{a} - \frac{1}{b} \right) \right)$$

ウ. 金属導体球の静電容量 $C$ は $Q = CV$ より

$$C = \frac{Q}{V} = \frac{1}{\frac{1}{4\pi \epsilon_0 b} + \frac{1}{4\pi \epsilon} \left( \frac{1}{a} - \frac{1}{b} \right)} = \frac{4\pi \epsilon_0}{\frac{1}{b} + \frac{\epsilon_0}{\epsilon} \left( \frac{1}{a} - \frac{1}{b} \right)}$$

(1)

ア. 閉回路を流れる電流  $I_0$  は 
$$I_0 = \frac{E_1 - E_2}{R_1 + R_2}$$

$$V_0 = E_1 - R_1 I_0 = E_1 - R_1 \frac{E_1 - E_2}{R_1 + R_2} = \frac{E_1 R_2 + E_2 R_1}{R_1 + R_2}$$

$$\text{または、 } V_0 = E_2 + R_2 I_0 = E_2 + R_2 \frac{E_1 - E_2}{R_1 + R_2} = \frac{E_1 R_2 + E_2 R_1}{R_1 + R_2}$$

イ. 端子 a-b から見た内部抵抗  $R_0$  は  $R_1, R_2$  の並列抵抗なので

$$R_0 = \frac{R_1 R_2}{R_1 + R_2}$$

ウ. 鳳-テブナンの定理を用いて

$$I = \frac{V_0}{R_0 + R_3} = \frac{E_1 R_2 + E_2 R_1}{(R_1 + R_2)(R_0 + R_3)} = \frac{4 \times 5 + 2 \times 1}{(1+5)\left(\frac{5}{6} + 2\right)} = \frac{22}{17} \quad \text{答え } \frac{22}{17} \text{ A}$$

(2)

ア. 電源  $E$ , 抵抗  $R$ , インダクタ  $L$  が作る閉回路の回路方程式は,  $t$  秒後にインダクタに流れる電流を  $i_1(t)$  と置くと

$$R i_1(t) + L \frac{di_1}{dt} = E$$

定常解を  $i_{1s}$ , 過渡解を  $i_{1t}$  と置くと,  $di_{1s}/dt = 0$  であるから,

$$i_{1s} = \frac{E}{R}$$

次に, 過渡解は  $E=0$  とすると,

$$R i_1(t) + L \frac{di_1}{dt} = 0$$

$$i_{1t} = A e^{-\frac{R}{L}t}$$

よって一般解は,

$$i_1(t) = i_{1s} + i_{1t} = \frac{E}{R} + A e^{-\frac{R}{L}t}$$

$i_1(0) = 0$  より,  $A = -\frac{E}{R}$  が求まるため,

$$i_1(t) = \frac{E}{R} \left( 1 - e^{-\frac{R}{L}t} \right)$$

イ.

電源  $E$ , 抵抗  $2R$ , コンデンサ  $C$  が作る閉回路の回路方程式は,  $t$  秒後にコンデンサに蓄えられる電荷を  $q_2(t)$  と置くと

$$2R \frac{dq_2}{dt} + \frac{q_2}{C} = E$$

定常解を  $q_{2s}$ , 過渡解を  $q_{2t}$  と置くと,  $dq_{2s}/dt = 0$  であるから,

$$q_{2s} = CE$$

次に, 過渡解は  $E=0$  とすると,

$$2R \frac{dq_{2t}}{dt} + \frac{q_{2t}}{C} = 0$$

$$q_{2t} = Ae^{-\frac{1}{2CR}t}$$

よって一般解は,

$$q_2(t) = q_{2s} + q_{2t} = CE + Ae^{-\frac{1}{2CR}t}$$

$q_2(0) = 0$  より,  $A = -CE$  が求まるため,

$$q_2(t) = CE \left( 1 - e^{-\frac{1}{2CR}t} \right)$$

よって, コンデンサの電圧  $v_C(t)$  は,

$$v_C(t) = \frac{q_2(t)}{C} = E \left( 1 - e^{-\frac{1}{2CR}t} \right)$$

抵抗の電圧  $v_2(t)$  は,

$$v_2(t) = E - v_C(t) = Ee^{-\frac{1}{2CR}t}$$

ウ. 電源に流れる電流  $i(t)$  は,

$$\begin{aligned} i(t) &= i_1(t) + i_2(t) = i_1(t) + \frac{v_2(t)}{2R} = \frac{E}{2R} e^{-\frac{1}{2CR}t} + \frac{E}{R} \left( 1 - e^{-\frac{R}{L}t} \right) \\ &= \frac{E}{R} \left( 1 + \frac{1}{2} e^{-\frac{1}{2CR}t} - e^{-\frac{R}{L}t} \right) \end{aligned}$$

[ 3 ]

(1)

ア.  $\beta = \frac{i_c}{i_b}$

イ.  $\alpha = \frac{i_c}{i_e}$

ウ.  $\beta = \frac{i_c}{i_b} = \frac{i_c}{i_e - i_c} = \frac{i_c/i_e}{1 - i_c/i_e} = \frac{\alpha}{1 - \alpha}$

(2)

ア. 抵抗の比率より  $D_1$  に流れる電流  $I_1$  は  $D_2$  に流れる電流  $I_2$  の2倍となる.

これより  $I_1 = 2I_2$  .

イ.  $R_0$  の電流を  $I$  とした場合,  $R_0$ ,  $R_2$ ,  $D_2$  の端子間電圧, および  $I$  に関しそれぞれ下記の式が求まる.

$$RI + 4RI_2 + V_F = V$$

$$I = I_1 + I_2$$

これより,  $I_2$  を求めると,  $I_2 = \frac{V - V_F}{7R}$  .

ウ. 上記のア, およびイから  $I_1 = 2I_2 = 2\left(\frac{V - V_F}{7R}\right)$  .

(3)  $R_1$ ,  $R_2$ , またトランジスタのベース-エミッタ間の電流をそれぞれ  $I_1$ ,  $I_2$ ,  $I_3$  とした場合,  $I_2 \gg I_3$  の関係より,  $I_1 \cong I_2$  となる. これより,

$$V_{out} = (R_1 + R_2)I_1 .$$

また,  $V_{th}$  を用いて,  $I_1 \cong I_2 = \frac{V_{th}}{R_2}$  .

これより,  $V_{out} = (R_1 + R_2) \frac{V_{th}}{R_2} \left( = \frac{R_1 + R_2}{R_2} V_{th} \right)$  .

[ 4 ]

(1)  $x(t) + y(t) = \sqrt{3} \cos(2\pi t) - \sin(2\pi t)$   
 $= A \cos(2\pi f_0 t + \theta) = A \cos \theta \cos(2\pi f_0 t) - A \sin \theta \sin(2\pi f_0 t)$  より  
 $A \cos \theta = \sqrt{3}, A \sin \theta = 1$  なので,  
 $A = \sqrt{(\sqrt{3})^2 + 1^2} = 2, f_0 = 1, \theta = \tan^{-1} \frac{1}{\sqrt{3}} = \frac{\pi}{6}, P = \frac{1}{T} \int_0^T s^2(t) dt = \frac{A^2}{2} = 2$

(2) 二つの正弦波を掛け合わせると, 元の二つの周波数の和と差の周波数をもつ成分が現れるので, 最高周波数は和の周波数成分であり  $1+3=4$  となる。

もしくは, 計算すると  $x(t)z(t) = 2\sqrt{3} \cos(2\pi t) \cos(6\pi t) = \sqrt{3} \cos(4\pi t) + \sqrt{3} \cos(8\pi t)$  より, 周波数2と4の二つの正弦波が得られる。よって, 最高周波数は4。

(3)  $z(t) = 2 \cos(6\pi t) = e^{-j6\pi t} + e^{j6\pi t}$  (オイラーの公式より)

(4)  $G(f) = \int_{-\infty}^{\infty} g(t) e^{-j2\pi f t} dt = 5 \int_{-0.1}^{0.1} e^{-j2\pi f t} dt = \frac{5}{\pi f} \frac{e^{j0.2\pi f} - e^{-j0.2\pi f}}{2j} = \frac{\sin(0.2\pi f)}{0.2\pi f}$

ア. 上式に  $f=0$  を代入して  $G(0) = 1$

もしくは,  $G(0)$  は直流成分の大きさであるから矩形波  $g(t)$  の面積を求めれば良いので,  $G(0) = 5 \times 0.2 = 1$

イ. フーリエ変換の周波数シフトの性質より  $G(f+3) + G(f-3)$

もしくは, 計算すると

$$\int_{-0.1}^{0.1} 10 \cos(6\pi t) e^{-j2\pi f t} dt = 5 \int_{-0.1}^{0.1} e^{-j2\pi(f+3)t} dt + 5 \int_{-0.1}^{0.1} e^{-j2\pi(f-3)t} dt = G(f+3) + G(f-3)$$

(5)  $H(f) = \frac{3}{1+j\sqrt{3}f}$  より  $|H(f)| = \frac{3}{\sqrt{1+3f^2}}, \angle H(f) = \tan^{-1}(-\sqrt{3}f)$  であるから

ア.  $|H(1)| = \frac{3}{\sqrt{1+3}} = \frac{3}{2}, \angle H(1) = \tan^{-1}(-\sqrt{3}) = -\frac{\pi}{3}$

イ. 信号  $1+x(t)$  の出力は各成分の出力の和となる。信号1は  $f=0$  なので出力

は3, 信号  $x(t)$  の出力は問アの結果を用いて  $\frac{3\sqrt{3}}{2} \cos\left(2\pi t - \frac{\pi}{3}\right)$ , よって

$$3 + \frac{3\sqrt{3}}{2} \cos\left(2\pi t - \frac{\pi}{3}\right)$$

[5]

(1)

- A 格子点
- B 結晶格子
- C 単位格子
- D 単純立方格子
- E 体心立方格子
- F 6
- G 8
- H 配位数

(2)

ア. 答え  $\Lambda_0 = \Lambda^+ + \Lambda^-$

イ. 無限希釈水溶液中で酢酸は完全解離で電離度は1になる。 答え 1

ウ.  $91 \times 10^{-4} + (426 \times 10^{-4} - 127 \times 10^{-4}) = 390 \times 10^{-4}$  答え  $390 \times 10^{-4} \text{ S m}^2 \text{ mol}^{-1}$

(3)

ア. 平衡式から  $A_2$  の 1 [mol] の増加は,  $AB$  の 2 [mol] の減少になる。

答え  $2x \text{ [mol]}$

イ. 全物質質量の変化はないので, 体積変化がない場合は反応後も全圧は変わらない。

答え  $P \text{ [Pa]}$

ウ. 反応前後での全物質質量は変化しないので, 全物質質量は 3.0 [mol]

混合気体の全圧を  $P$  として,  $A_2$  の生成量 [mol] を  $x$  とすると,

$$A_2 \text{ と } B_2 \text{ の分圧 } p(A_2) = p(B_2) = (x/3.0)P$$

$$AB \text{ の分圧 } p(AB) = ((3.0 - 2x)/3.0)P$$

$$K_p = (p_{A_2} \times p_{B_2}) / (p_{AB}^2) = x^2 / ((3.0 - 2x)^2) = 4$$

すなわち,  $x^2 = 16x^2 - 48x + 36$  の方程式を解けば,  $x = 1.2$  と  $2.0$  になる。

ここで,  $x$  は  $1.5$  より小さくなければならないから  $1.2$  が正解となる。

答え  $1.2 \text{ mol}$